

## 【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト **2026年2月号** で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

### ●リユース品 市場規模3割増へ

政府は、使用済みの服や家具などをそのまま再利用する「リユース品」の市場規模を、2030年に24年比で32%拡大させる。24年の約3兆5千億円を、4兆6千億円規模にするという。ごみの排出抑制と、製造や廃棄の際に出る二酸化炭素の削減が目的。環境省が3月にも策定するリユース促進に向けた工程表に目標や取り組みを盛り込む。リユース品の市場規模は、1年間にインターネットオークションや中古品販売店などで購入された使用済み書籍、家電を含む22品目の総額に基づき算出。近年はおおむね年1%のペースで伸びているが、目標の実現には今後、年4～5%の大幅増が必要となる。フリーマーケットアプリ経由で粗悪品が届く被害をふまえ、事業者が守るべき指針を27年度までに策定する。  
(ニュースダイジェスト 2026年2月12日より)

①なぜ社会全体でリユースを進める必要があるのだろうか？

②普段の生活の中で、リユースにつながる行動には何があるだろうか？

③リユース品が流通拡大することのデメリットには何があるだろうか？

※次ページの解説も参考にしよう！

## 今月のSDGs

※北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、ゴール 12 について解説いただきました。

12 つくる責任  
つかう責任

### つくる責任 つかう責任

この新聞記事は、政府が2030年までにリユース品の市場規模を約3割拡大しようとしている、というニュースです。リユースとは、一度使ったものを捨てずに、できるだけそのままの形で再び使うことです。今回の政策は、ごみの削減や二酸化炭素の排出削減をめざすもので、SDGs 12番「つくる責任 つかう責任」と深く関連しています。新品を作るには資源やエネルギーが必要で、廃棄にも環境負荷がかかります。だからこそ、1つのものをできるだけ長く使い続ける社会をつくるのが重要になっています。

記事によれば、フリマアプリや中古品販売店などで取引されるリユース品の市場は近年拡大していますが、政府はこれをさらに促進するために、粗悪品の流通を防ぐための事業者向け指針を作ったり、自治体に環境に配慮した物品の購入を促したりする方針です。また、家庭で不要なものが多く出る年末や引っ越しの時期に、リユース品の購入を促すキャンペーンも検討されています。こうした施策は、行政・企業・市民が協力しながら、循環型社会を実現するための取り組みです。

高校生のみなさんにとって、リユースはとても身近なテーマではないでしょうか。例えば、家にあるもう着なくなった服、読み終えた本、買い替えた家電など、みなさんの周りにも「まだ使えるけれど使われていないもの」がたくさんあるはず。それらをフリマアプリで売ったり、必要としている人に譲ったりすることは、環境にやさしい行動の第一歩です。また、逆にリユース品を自分が購入することで、限りある資源を大切にす消費者としての意識を育むことができます。こうした行動は、SDGsの実現に直接つながる「自分ごと化」しやすいテーマでもあります。

さらに、この話題は高校での学びとも深くかかわっています。地理総合における「資源・エネルギー問題」、公共の「持続可能な社会の構築」、家庭科の「持続可能な暮らし方」、理科では「環境負荷と物質循環」といった内容と結びつけることができるでしょう。また、総合的な探究の時間でも、地域のリユースショップの調査や、学校内でのリユース活動の企画、フリマアプリの安全性や仕組みの分析など、探究テーマとしてさまざまな形に発展させることができます。

大切なのは、このニュースを「社会の出来事」で終わらせるのではなく、「自分の生活とどうつながっているか」を考えることです。身近な行動がより大きな社会の変化につながることを理解できれば、探究学習はより実感を伴ったものになります。そして、普段の消費行動を少し工夫するだけで、未来の環境を守る力になれるという感覚を持つことが、これからの社会を生きるうえでとても大切です。このテーマを通して、自分の生活、学校での学び、社会の動きが繋がっていることを感じながら、持続可能な未来について考えてみてください。